

## 自己実現を支援するーSさんの取り組みー

生活介護さんぽ  
管理者 高村 壮士

### I 事業所の紹介

平成 25 年 10 月 放課後等デイサービスさんぽ 定員 10 名で開始

平成 28 年 4 月 生活介護さんぽ 定員 10 名で開始

管理者・児童発達支援管理責任者 兼務 1 名

サービス管理責任者 1 名

常勤職員 4 名 非常勤職員 5 名

### II Sさんのプロフィール

- 1 年齢 34 歳
- 2 性別 男性
- 3 療育手帳 A2(H11 に B1 取得→H15 に再判定)
- 4 障害程度区分 4
- 5 家族構成 両親・兄と同居

### III Sさんの生活歴

- ・H8(13 歳) A 中学校特別支援学級
- ・H11(16 歳) A 特別支援学校高等部 (療育手帳 B1 取得)
- ・H14(19 歳) A 作業所(就労継続支援 B 型)通所
- ・H15(20 歳) 療育手帳 再判定 A2
- ・H18(23 歳) 作業所利用を嫌がるようになる
- ・H21(26 歳) A 作業所退所 (その後は引きこもりがちになり長期在宅で過ごす)
- ・H25(30 歳) 障害者年金の申請援助を期に、基幹相談支援センターに相談

### IV 利用に至る経緯

- 1 基幹相談支援センターより A 事業所に相談(週 1 回の利用開始)
- 2 A 事業所より自宅に近い生活介護さんぽの紹介
- 3 生活介護さんぽの見学
- 4 利用を開始する

## V 利用に向けての事前準備

- 1 基幹相談支援センターと利用に向けての打ち合わせ
  - (1)利用する目的の明確化
  - (2)スケジュールと活動内容の打ち合わせ
  
- 2 事業所間の引継ぎ
  - (1)A事業所のこれまでのスケジュールと活動内容の把握
  - (2)移行に向けた面談  
(うまくいかなかったら戻ってきてよいと伝えられる)
  
- 3 施設内の準備
  - (1) 過ごし方の検討 → 1日のスケジュールの作成
  - (2) 対人面での配慮 → 職員とのマッチング
  - (3) 苦手な声や音への対応 → 個室の設定
  - (4) 過去の送迎での苦手意識への配慮 → 迎えの時間の検討

## VI 利用を実際にはじめて

- 1 スケジュールの作成 → 週2日・短時間の利用から始める
- 2 職員とのマッチング → 職員を固定してスケジュールの確認や世間話を行う
- 3 個室の設定 → ラジオや音楽を自由に聞けるようにする  
利用者の声や物音に苦情が出始める
- 4 送迎 → 概ね30分くらい遅れてくるが休むことはあまりない  
他利用者と一緒に帰宅できるようになる

## VII 現在の様子

- 1 通所の状況  
ほぼ毎日通所できている。水曜日に休みがちになる。
- 2 活動の状況
  - (1) スケジュールの作成と確認を担当職員と一緒にいる。
  - (2) 自立課題  
A事業所で使用したものとさんぽで作成したものを時間になったら、自ら行うようになる。
  - (3) 作業  
自主製品（布ぞうり）の布を切る作業と、貼る作業を練習しながら行っている。  
工賃を得るようになる。

### 3 余暇活動について

#### (1) CDレンタル、カラオケ、卓球など

定期的に活動に参加できている。

すこしずつ利用者とも活動できるようになっている。

#### (2) 外出、日帰り旅行

車内のメンバーの調整を行う以外は、特に問題なく参加できている。

#### (3) 忘年会

12月、男性職員2人と居酒屋で忘年会を行う。

### 4 対人関係

#### (1) 利用者同士

①挨拶や話しかけられたことへの受け答えをする程度である。

②利用者の様子や何に興味があるのかなど気になる様子が見られる。

③送りで同乗している利用者の声や態度に不満はあるようだが、優しい態度で接してくれている。

#### (2) 職員との関係

①担当職員にいろいろな不満・要望等を話すようになる。

②女性職員に対しては、変に意識してしまい厳しい物言いになってしまうことがある。

### 5 基幹相談支援センターとの連携について

基幹相談支援センター担当職員と本人で週1回の面談を継続して行っている。

面談の内容はさんぽとも共有している。

日々の活動のことや、さんぽでの新しい取り組みの導入についての説明、利用目的の確認など行っている。

## VIII まとめ

長期の在宅生活からほぼ毎日通所できるようになり、少しずつこれまでの生活から変化している。Sさんの将来の目標は、「就労し収入を得て自立する」ことであり、実現するにあたって様々な面で課題も多いと思われる。今後も成功体験を増やし自信をつけていきながら、将来の就労に向けて一歩ずつ本人と歩んでいきたい。

## 活動場所写真

一日のスケジュール



月にスケジュール



休憩場所



作業場所



自立課題



作業

